



さかのみなと

Ms.通信

境港商工会議所女性会

〒684-8686 境港市上道町3002

(境港商工会議所内)

TEL 44-1111・FAX 42-6577



ゲーム大会で盛り上がるメンバー

にぎやかに新年互礼会

中国大会成功の喜びを共有

暖冬の新年を迎え、このまま雪を見ずに春が来るかも...と、思っていた1月18日の夕刻、割烹・味処ことぶきで、境港商工会議所女性会新年互礼会が開催されました。参加員は18人でした。

互礼会に先立ち、昨年急逝された阿部祐子会員に全員で黙祷を捧げました。次に木村真理子会長の年頭あいさつ、酒井美智子副会長の乾杯の発声と続き、互礼会がスタート。

美味しいお料理をいただき、なごやかに懇談しながら各会員が新年の抱負を発表。昨年7月、当女性会が主管となり、盛大に行われた中国地方商工会議所女性会連合会境港大会の話題が中心でした。「境港ならではのおもてなしの心で取り組めた」「全会員一致団結のパワーが成功の鍵だった」「会員有志の大漁太鼓の披露は、境港らしさをお客様に伝えるよいパフォーマンスだった。練習のときは色々な苦労もあったが、最後は楽しみに変わった」など、目標を達成したすばらしい体



ホテルの係員を質問攻めした参加者ら(天然温泉 境港 夕風の湯 御宿 野乃で)

視察見学・体験会を実施

グランドオープンした新ホテル

境港商工会議所女性会は2月18日、J.R境港駅前にグランドオープンした「天然温泉 境港 夕風の湯 御宿野乃」の視察見学・体験会を実施しました。待ちに待ったオープンのため、総勢17人の参加でした。

まず、食事処「海つばき」で昼食。それぞれ好みのメニューを注文し、食後はフリードリンドクサーピスのコーヒードリンクも会員同士で楽しく会食した後、館内のお部屋やお

境港商議所女性会 会員

ひとりひとりのPRタイム

今月号から当女性会の会員が自社のことや自分の考えなどをPRするコーナーを始めます。最初に登場するのは、赤石和子さんと足立明美さんです。

赤石和子

(有)赤石商店
(境港市花町)

〈事業所のあらまし〉
創業は1924年(創業年数93年)です。菓子

験と成功の喜びを皆で共有できたようです。

食事を楽しんだ後は、足立明美副会長の進行で、3つのチームに分かれてゲーム大会。大いに盛り上がり、チームごとに賞品が配られて、終了しました。

最後に赤石和子副会長が、「境港の今後の進歩と発展が期待される中、女性会ここにありという気持ちで、楽しくこの一年も頑張りました」とあいさつ。

賞品にいただいたチュリーリップの鉢の開花を楽しみに思いながら、女性会の結束力を再認識し、

また、客室はいろいろなタイプの部屋があり、それぞれの部屋を見学しながら、女性としては気になる価格設定など、会員からの様々な質問が出て、係りの人は質問攻めに合いました。

朝食バイキングや昼食も宿泊以外の人も利用で

き、夕食は宴会もできるそうです。地元の人に利用していただき、地元の人に愛されるホテルになるよう努めたいとの意気込みが伝わりました。

12階の大浴場からは、境港から大山までが一望でき、小旅行をした気分になった見学会でした。

これから境港のランドマークになることは間違いないさそうです。ぜひ、地元の人、日本全国、また外国の人などにも利用していただき、ますます水木しげるロードがにぎわうようになればと、期待しています。

(総務部会 K)

の製造卸・販売をしています。「ゲゲゲの鬼太郎」のせんべい・まんじゅう、カニ・エビせんべいなどの菓子類のほか、鬼太郎グッズも取り扱っています。水木しげるロー

ドに直販店があります。(CANJURY) 入会してから早いもので17年が経ちます。会員の皆様との交流会や講演会、視察などを通して新たな気付きを数多くさせていただいています。

現在、会社は息子夫婦が中心となって頑張っ

これからも、女性会の活動を通して、色々な人と出会い、学ぶことができるよう、数多くの事業に楽しみながら参加していきたいと思

足立明美

(有)足立製綿所
(境港市幸神町)

〈事業所のあらまし〉
創業1949年(創業年数66年)の寝具専門店です。寝具のほか、ギャッペ絨毯やインテリア用

今年も頑張ろうという気持ちで小雨の中、帰途にきました。(会報部会 K)

主に講演会や講習会、研修会、会員親睦会などを行い、自己の資質向上を図るとともにお互いの交流を深めています。

会員の対象者は、境港商工会議所会員事業所の女性経営者、または役員です。ただいま、新入会員募集中。

一緒に活動しませんか
ただいま会員募集中

— 境港商議所女性会 —

境港商工会議所女性会は、会員相互の親睦を図り、かつ女性の立場から商工業の改善と発展に寄与することを目的とした

詳しくは、事務局(境港商工会議所内・644-1111)にお問い合わせください。

私はこの仕事がライフワークだと考えているので、「眠りを文化に」をキヤッチフレーズに、「不眠に悩む人が一人でも少なくなるよう、情報発信を続けたいと思っています。